



月刊

オリーブ

2025

9

Vol.124

— 真の更生を目指して —

「挑戦」

今年の夏、私は人生で一度は成し遂げたいと願っていた富士山登頂という大きな目標を掲げ、仲間たちと入念な準備を進めていました。当初7月に予定していたその挑戦は、台風接近という予期せぬ事態に遭遇し、延期となり、新たな日程が9月6日と決まりました。延期は直前などところ残念ではありましたが、挑戦への情熱が冷めることは一切ありません。

むしろ、仲間から「本番に向けて、標高千七百メートル級の山を最低2度登頂」が課題に挙げられ、私たちのモチベーションは一層高まっています。この練習登山は、単に体力をつけるためだけではありません。富士山の険しい道のりを一歩一歩進むには、並大抵の覚悟では足りないのです。何度も心が折れそうになる瞬間を乗り越え、自分自身の限界に挑み続ける強い精神力と根気が必要となります。今、私はまさにこの新たな「挑戦」の真っ只中にいるのです。

そんな個人的な目標と並行して、私たちが運営する「オリーブの家」は、今までとは全く異なる状況に直面していました。保護観察所との連携がより深く求められる事案が増し、以前にも増して密接な関わりが多い時期でもありました。利用者さんの生活を支える中で、様々な課題が浮き彫りとなり、それら一つ一つに真摯に向き合う日々が続いていたのです。この状況を受け、「くろかみ荘」の運営体制も見直すことになりました。「第2オリーブの家」としての最善を模索してきましたが、なかなか軌道に乗せることができませんでした。常に5割の入居率では本来の目的を達成することは不可能でしょう。グループホームとして利用が可能かどうかの分岐点に來ていると私は思っています。行き場のない方々が安心して生活できるオリーブの家であり続けたいと願い「自立準備ホーム」「グループホーム」の併用を確立していきます。

このように、富士山登頂という個人的な目標から、施設の運営改善という組織的な課題まで、私は今、多くの「挑戦」の渦中にいます。肉体的にも精神的にも大変で忙しい状況であることは間違いありません。しかし、これらの挑戦は、私自身を、そして私たちが築き上げる組織を、さらなる高みへと導いてくれる貴重な機会だと信じています。どんな困難な状況に直面しても、決して一歩も引くことなく、果敢に乗り越えていきたい。そして、その先に待つ大きな達成感と、一回り成長した自分自身に出会うことを楽しみにしています。何事も臆することなく、前向きに挑戦し続けること。それが、今を生きる私にとって、最も大切な指針となっているのです。この想いを引き継いでくれるのはスタッフであり関係者の皆さんであってほしいと願います。



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

畑から果樹園へ

無農薬野菜に挑戦とばかりに始めた畑でしたが、担当者が変わること、素人ばかりですから何度も失敗を繰り返しました。

そこで専門の方にご指導頂きながら果樹園に挑戦する事となりました。畑が難しいのか？果樹園が難しいのか？全くわかりませんが今度はどんな実になるのでしょうか！ご報告が楽しみです。

青木康正

前回のオリーブ農園は、私の就職により中途半端な形で終わってしまい、皆さんにご迷惑をおかけした形になってしまい本当に心苦しく思っていました。これからは様々なことが整理できましたので農園に注力出来る環境が整ったと感じています。

今後は出来る限り力を注ぐつもりです。

今思えば私が違う方向に進めば神様が優しく軌道修正して下さいます、就職してからの私は葛藤の連続でした。このままでは、私の望む未来が遠退くのではないか、という思いと、反面、早く仕事を覚えたい、その狭間で数か月悩みました。自分の理想から離れていく危機感で、病気が悪化したようです。

ですから退職を決意し、その旨を、青木理事長に伝えた時には正直、すっかりした気持ちに成りました。これからのスケジュールは自分の理想を進める事に専念します。凄くわくわくしています。農園を野菜作りから果樹園にシフトを変えるにあたり土地の広さを確認して植える品種の選定と植える時期。私も知らないことだらけですので。皆さんにお知恵と力を借りながら進めたいと思っています。数か月遠回りしましたが、聖書にある様に、物には時間が必要です、私に神様がくれた時間それ、無駄にせず体験した事をこれからの取り組みに活かせればと思います。

皆さんが豊かさを感ぜられる場所を追い求めていきたいと思っています。果樹の植える時期はもう少し先ですが、それまでしっかり計画し、少しでも、皆様に残せる物を作りたいと思います。

考えてみれば、神様は青木理事長と出会わせて下さいました。技術はあるが、箸にも棒にもかからない私を仲間の一人に迎え入れて下さり今の私があります。

オリーブの家のスタッフの皆様や、これまで出会った人に感謝します。それからこれから出会う人には、愛と感謝を持って接します。

これからは勉強の日々ですが、皆さんに喜んでもらえる事、自分の夢は神様が整えて下さいますから、楽しみながら取り組んで行けば良いと思っています、今は病気の事もありますが、これも日々前向きな生活を送ることで改善するのでは

ないかと思っています。この様な考えに至った私は凄く幸せです、これから出会う人にも愛と感謝を持って接したいと思っています。

山下龍二

受刑者のみなさんへ

オリーブの家はあなたの自立をせいいっぱい応援します！

住む場所、食事、仕事を準備します



お花見でニコニコ(^_^)



理事長の青木です！



みんなで卓球大会！

「あなたには帰る場所がある」

自立準備ホーム・オリーブの家 **まずはお手紙ください**
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201

九州の熊本であなたを
まっています！

支援者からの

寄稿



「不屈の精神」

熊本日日新聞編集委員

福井 一基

「一緒に富士山に登りませんか」。

「オリーブの家」に取材で通いだして数か月後、青木さんから思わぬ提案がありました。正直に言うと、突拍子もない誘いだっただけその時は生返事。そのまま富士山のことは忘れていたのですが、2週間ほど後、順子さんから宿などを手配すると言われ、少々慌てたくらいでした。

まず一番に思ったのは、「青木さんが登れるのか?」。がっちりしていて体力はありそうですが、さすがに77歳です。若い時是不摂生もしていたでしょう。

次に思ったのが「自分は登れるのか」。山登りは何度か経験していますが、苦手意識がありました。たまに階段を上るだけで大腿筋に疲労を感じます。フルマラソンには4回挑戦しましたが、5時間を切ったことがありません。もう「きついことはしたくない」というのが本音でした。

しかし、断りにくい雰囲気を作るところさすが青木さんです。曖昧な返事を繰り返している内に、外堀は埋まっていきました。標高3776㍎、スタート地点の5合目との標高差は約1400㍎。普通の人で10時間のコースです。半端な気持ちでは臨めません。それから、青木さんご夫妻とトレニングを始めることになりました。

まず行ったのが、夫妻が毎週登っている熊本市のシンボル、金峰山。標高665㍎、1時間弱で登るコースです。青木さんは登りてしっかりした足取りでしたが、下りて疲れが出たのか、段差がある所で背中からごろんと転倒してしまいました。手を差しのべる間もない派手な倒れ方だったので、驚くべきは転倒しても平気な顔をされているのです。私ならどこそこが痛いと言いくらいいい所。性根のすわりかたの違いを見せつけられたようでした。

次に行ったのが美里町の「日本一の石段」です。この日は時間が合わなかったため私だけ先に上って下りで合流し、少しお付き合ひして私はそのまま下りました。その時点で青木さんは相当時間がかかっていたので、「3333段」は無理ではないかと心配していました。

ところが、帰宅して電話すると、ちゃんと「登頂」していました。暑さに耐え、5

時間近く歩き続けたのです。その時、富士山にかかる並々ならぬ思いを感じました。まさに絶対に折れない「不屈の精神」です。7月に予定していた富士登山は天候不良で9月に延期になりましたが、その分トレニングができることになりました。8月下旬には1756㍎の祖母山で「最終調整」です。気付いたら、私までその気になっていきます。これも、人を引きつける青木さんの魅力なのかもしれません。

さて、富士登山はどうなることでしょうか。まずはけがをせず、無事に帰ってきたと思っています。

福井 一基

ふくい・かずき



1974年生まれ。98年、熊本日日新聞社に入社。主に社会部畑を歩み、警察、自衛隊、災害取材のほか依存症やLGBTQ、不登校など教育問題に取り組んできた。



オリーブの家で
見つけた笑顔



「8月のイベント～お墓参り」

朝の9時過ぎに墓地に集合し、久しぶりのお墓参りをしました。総勢10名で掃き掃除をし、墓石を拭きあげ、水を流してさっぱりときれいになりました。

その後、亡くなった方の写真を飾って、「君は愛されるために生まれた」をみんなで賛美しました。天に召された方の思い出を語り、何か気持ちが引き締まった感じでした。今日の参加者の中には20代の若者もいて、汗を流しながら清掃を頑張ってくれていました。若い彼は何を思ったのでしょうか？
その後は、恒例のジョイフルでの昼食！デザート注文オッケーです。ワクワクしながらメニューを見て注文しました。

副理事長 小原順子



会計報告

| | | 5月 | 6月 | 7月 |
|-------------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 月次自立準備支援人数 | | 5名／8室 | 6名／9室 | 4名／9室 |
| グループホーム利用者数 | | 10名／12室 | 11名／12室 | 11名／12室 |
| 累計ファミリー数 | | 173名 | 175名 | 175名 |
| 収入 | 自立準備ホーム | 784,166 | 832,505 | 896,957 |
| | 献金 | 723,800 | 801,460 | 776,300 |
| | グループホーム | 2,252,902 | 1,986,604 | 2,345,034 |
| | その他 | 148,866 | 496,614 | 174,356 |
| 収入合計 | | 3,909,734 | 4,117,183 | 4,192,647 |
| 支出 | 家賃 | 727,300 | 677,800 | 710,800 |
| | 水道光熱費 | 234,081 | 235,569 | 269,348 |
| | 食費 | 454,974 | 419,988 | 508,475 |
| | 人件費 | 1,967,971 | 2,065,650 | 2,321,017 |
| | 活動費 | 101,719 | 117,822 | 175,029 |
| | その他経費 | 473,353 | 728,290 | 586,235 |
| 支出合計 | | 3,959,398 | 4,245,119 | 4,570,904 |
| 収支合計 | | -49,664 | -127,936 | -378,257 |

| | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 前月繰越現金預金残高 | 5,659,219 | 5,946,687 | 5,626,396 |
| 翌月繰越現金預金残高 | 5,946,687 | 5,626,396 | 5,087,110 |
| 施設準備積立金残高 | 1,500,263 | 1,550,263 | 1,600,263 |

※ 人件費には、夏季賞与4名分400,000円が含まれています。その他経費には、ニッサンキャラバン車検代93,750円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
現在、オリーブの家はグループホームの運営は安定していますが、自立準備ホームの受け入れは行政任せのこともあり、依然として厳しい状況です。そのため、今年1月以来7か月連続で赤字となっています。先月からは簡単な広告掲載を始め、現場でも日々工夫を重ねています。引き続き温かいご支援をよろしくお願いいたします。

副理事長 永山 太

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：0182）
京町支店（支店コード：156）
口座番号：（普通）1574408
口座名義：NPO法人オリーブの家
（トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）
口座番号：17180-5444801
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：718
口座番号：（普通）0544480



月刊オリーブ
2025年9月1日発行
（毎月1回発行） 第124号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<https://npo-olive.org/>

